



「少年の主張」相馬大会 (学校教育部会)



学校教育部会は、7月8日、市民会館大ホールを会場に「少年の主張」相馬大会を開催しました。

この大会は、中学生が社会の一員である自覚を高めるとともに、中学生に対する大人の理解や関心を深めることを目的としています。

今年は、市内中学校より選ばれた代表10名の生徒が、日常生活のなかで感じる思いや楽しみなどを自分自身の言葉で力強く発表しました。

大会結果

👑	最優秀賞	愛澤 叶依さん	中村第二中学校 2年	『生きていくということ』
👑	優秀賞	木村 友乃さん	中村第二中学校 3年	『ありがとう』
👑	優秀賞	島袋 里菜さん	中村第一中学校 3年	『「障害」という言葉について』
👑	優秀賞	安部 紗希さん	中村第一中学校 2年	『来たれ、未だ見ぬわたしたち!』

最優秀賞 生きていくということ

中村第二中学校2年 愛澤 叶 依 さん



みなさんは、「血汗症」という病気を知っていますか？文字にすると血液の「血」と「汗」、症状の「症」と書きます。「血汗症」とは強いストレスや、不安を感じたときに皮膚から血の混じった汗が出るという、とても珍しい症状の病気です。世界でも、ほんのわずかしが症例がないため、知らない人のほうが多いかもしれません。そして私は、この「血汗症」という病気を持って生活しています。

初めて症状が出たのは、小学校三年生のときでした。学校の休み時間、トイレに行ったときに、額にうっすらと赤い液体が出てきて「どうしたの？」と聞かれました。でも、どこにも傷がない、拭いても止まらない。そのとき、私はとまどうばかりで、何が起きているのか分かりませんでした。病院に行っても、先生は、「こんな症状は見たことがない……。」と言って、はっきりとした答えは返ってきませんでした。そのあといくつかの病院をまわって、ようやく、「血汗症かもしれない」と診断され、命にかかわる病気ではないが、血汗症に有効な薬や手術はなく、自分自身がこの病気と向き合っていく事しか無い、と医師に言われました。ほっとしたような、でも「これから大丈夫なのか……。」という不安な気持ちをもったまま、そこから私の苦しみが始まりました。

日常生活で緊張したときや、ストレスがたまっているとときに突然、うでや顔や背中から血がにじみ出て、「なにあれ!」「気持ち悪い」「怖っ!」とさわがれて、とても心が傷ついた経験があります。見た目に出るぶん、まわりの目がとても気になってしまふのです。だんだんみんなの前に出ることが嫌になり、外に出る機

会も減り、自分のからにとじこもってしまいました。そんな中、ある友達が、「それって病気なんですよ？大丈夫？」と、そつと声をかけてくれました。私にとつてとてもうれしい出来事でした。「わかってもらうことができる人がちゃんいるんだ!」と思えました。

「誰にも理解されない」、「知られていない」という事が、差別や偏見のもとになり、誤解されると気づくことができず話せるようになり、「これから、私は自分のことを少しずつ話せるようになり、「これって血汗症って言うんだ」「びっくりさせちゃってごめんね」と伝え、「初めて聞いたけど大丈夫？」と返してくれる人が増えてきました。きちんと伝えれば、きちんと受け止めてくれる人がいるとわかっただけで、私にとって、とても大きな変化となりました。

病気があっても、私は私です。笑ったり、落ち込んだり、友達とふざけ合ったり、悩んだり……。みんなと同じように、毎日を生きています。これからも、自分の体と向き合いながら自分らしく生きていきたいと思えます。そして私のように少し人と違うことで悩んでいる人がいたら、その人の気持ちに寄りそえるようなやさしい人になりたいと考えています。

どうか、みなさんも、自分とちよつと違う誰かに出会ったときに、「それ、なに?」「どうしたの?」って聞いてみてください。「怖い」や「おかしい」と否定される前に、理解しようとする気持ちこそが何よりの支えになり、きつとその人は救われると思います。病気とともに生きている人が、普通に生きること、勇気を出すことを、必要としなくていいような、そんな社会になってほしいと願っています。